

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路整備課

担当課長名：杉本 秀明

事業名	県道 阿南相生線 新野工区		事業区分	主要地方道	事業主体	徳島県
起終点	自：徳島県阿南市新野町花坂 至：徳島県阿南市新野町入田				延長	1.2km
事業概要：主要地方道阿南相生線は、阿南市橘町から新野地区を経由し、那賀町に至る延長約26.0kmの道路である。整備区間の現道は、3～4m程度と非常に狭小で、諸車輛通行に支障をきたしており、また、新野高等学校の通学路にもかかわらず、歩道等の整備ができていないことから、道路交通の円滑化を目的とし、自歩道を設置したバイパス方式で整備するものである。						
平成10年度事業化		-		平成10年度用地買収着手		平成10年度工事着手
全体事業費		26億円		事業進捗率		71%
計画交通量		4,800台/日		供用済延長		0.2km
費用対効果分析結果		B / C : (事業全体) 1.2 (残事業) 4.6		総費用 : (残事業)/(事業全体) 6.9/30.1億円 (事業費 : 6.6/29.7億円 維持管理費 : 0.3/0.4億円)		総便益 : (残事業)/(事業全体) 31.7/35.7億円 (走行時間短縮便益 : 27.4/31.4億円 走行費用減少便益 : 3.5/3.6億円 交通事故減少便益 : 0.7/0.7億円)
感度分析の結果		残事業について感度分析を実施				
交通量変動		B/C=5.1 (交通量 +10%) B/C=4.2 (交通量 -10%)				
事業費変動		B/C=4.2 (事業費 +10%) B/C=5.1 (事業費 -10%)				
事業期間変動		B/C=4.2 (事業期間+1年) B/C=4.8 (事業期間-1年)				
事業の効果等						
・道路ネットワーク効果：化学製品などの工場製品及び人参、椎茸などの農産物における物流の効率化、第22番札所平等寺など、県南地域における観光地への向上。						
・防災・減災効果：避難所、ヘリコプター降着適地など、防災施設への強化による地域防災力の向上。						
・周辺地域の効果：鉄道立体交差化による現道踏切周辺の渋滞緩和及び歩道設置による通学時などの自転車・歩行者の安全確保。						
関係する地方公共団体等の意見						
・当該事業箇所の地元住民等から、現道の幅員狭小による不便さや歩行者等への危険を感じている意見が多く、当該事業を実施することにより、これらの解消に期待が寄せられている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
・平成23年4月：一般国道55号桑野道路が事業化						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
・平成23年度までに、全延長1.2kmのうち現道拡幅部分の約0.2kmが供用済で、用地進捗率99%、事業進捗率80%となっている。						
・残事業はJ R 立体交差区間を含むバイパス部の1.0kmの整備。						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
・今後も引き続き用地取得及び工事促進に取り組み、平成26年度の供用を目指す。						
施設の構造や工法の変更等						
・J R 立体交差区間の工事仮設工において、他工区で使用した鋼材等を流用し、コスト縮減を図った。						
対応方針		事業継続				
対応方針決定の理由		以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。				
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は各年次の価格を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。